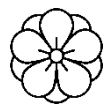


「児童理解と合理的配慮のため」

なんちょう
難聴



青梅市立河辺小学校
ことばときこえの教室

東京都青梅市河辺町5-24
0428-22-2103

WEB



○聞こえにくいってどんなこと？

聞こえにくさは、子供によって様々です。ささやき声に気付かない程度の軽度難聴から、補聴器を使っても十分に聞こえず、言語発達や発音、話し方などにも影響が出る高度難聴まであります。その中でも、高い音が聞こえにくいタイプや、低い音まで全体が聞こえにくいタイプ、左右差があるタイプなど、子どもによって違います。補聴器を着けている児童もそうでない児童もいます。

また、音自体は聞こえていても、その内容までは、聞き取れていないこともあります。

軽度	26～40 dB	ささやき声・静かな会話が聞き取れない
中等度	41～55 dB	すぐそばで、ゆっくり大きな声で話せば
やや高度	56～70 dB	聞き取れる
高度	71～90 dB	耳もとで、大きな声で話すと聞き取れる
非常に高度	91 dB～	かなり大きな音が、どうにか聞き取れる

▲WHO(国連の世界保健機関)による難聴の分類

○どんなことで困るの？

補聴器や人工内耳（頭蓋骨に埋め込むタイプの補聴器）を装用し聞こえにくさを補うことがあります。しかし、眼鏡のように万能ではなく、使用すれば話が常によく聞こえるという訳ではありません。

難聴の児童全体に見られやすいこと

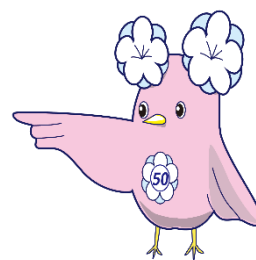
- 授業中、先生の声が聞こえず、指示が分からなくなる
- 休み時間中など、うるさい環境や、複数から話しかけられる環境で聞き取りが悪くなる
- 無視したと勘違いされて、友達を怒らせてしまう
- 体育や集会など、遠くの音が聞き取れず、周囲を見て動くことになる
- 見た目では聞こえづらさが分かりづらいので、理解してもらえない場面がある
- 幼少期の言語発達がうまく進まず、言語の遅れが見られることがある
- 自分の声が聞こえづらいため、発音を誤ることがあり、相手に伝わりづらくなることもある
- 自分は聞こえていると勘違いしてしまうことが多い（「聞こえている」と言われて、担任が安心し、支援が行き届かなくなる）

補聴器や人工内耳を装用した児童に見られやすいこと

- 補聴器が余計な雑音を拾うため、椅子をひく音などがうるさく感じる
- 日頃は聞き取れていても、遠くの音はマイクが拾いきれず、聞き取れない
- 心地よく聞ける音域が狭いので、楽器の演奏などが、とてもうるさく感じる
- デジタル音は聞き取りにくいので、聞き取りテストやリスニングが苦手になる
- 補聴器を外す環境では、指示が全く分からなくなる

補聴器には、
苦手なことも
あるよ！！

○先生にお願いしたいこと



★教室の騒音対策

補聴器は、「いない音」も拾って大きくしてしまいます。雑音があると、とても聞きとりにくくなるので、周りの雑音を抑えることが大切です。テニスボールを机や椅子の足につけると、騒音をカットして教室の音環境が良くなります。

テニスボールは、2クラス分程度でしたら、穴を開けて用意することができます。また、テニスボール用のカッターを河辺小から貸し出すこともできます。

★座席の位置の配慮

音が聞き取りやすく、他の児童の様子を見て行動できる「前から2～3番目の席」が良いと一般的には言われます。児童によっては聴力に左右差があることがあったり、廊下の雑音が気になったりすることがありますので、席替えの際には先生の話が聞こえやすい位置を児童自身と相談していただくことが大切です。また、児童によっては「後ろでも聞こえるよ」と言うことがありますが、「聞こえていると勘違い」していることも多く、確実に聞き取りは悪化しますので、保護者の方とも相談して慎重に選択すべきです。

★板書や話し方の工夫

やや大きくはっきりした口調で、口元を見せながら、短く話すと伝わりやすいです。口元を見て言葉を聞いている児童もいます。歩きながら話したり、板書をしながら話したりすると聞こえにくくなる場合があります。新しい言葉や大切な指示は、板書に残すと理解の手助けになります。

★ワイヤレス補聴システム利用の協力（基本的に児童の私物になります。）

児童によっては、遠くの先生が話した言葉を直接補聴器に届ける、「遠隔補聴システム」を持参することがあります。「ロジャー」「FM」などと呼ぶこともあります。マイクを先生が首にかけることで、距離があつたり、雑音があつたりしても先生の言葉が直接耳に伝わります。首にかけたり、個別に話すときはOFFにしたりするなど対応が複雑になりますが、ぜひご協力ください。

Phonak 社製「ロジャー」公式 HP より引用 ▶

★校内で情報を共有しておく

保護者と児童と相談して決まったことは、担任のみならず、学年、学校全体で共有し、校内で同じ対応ができるような態勢を整えてください。中学年以降は、教室を移動する教科があつたり、専科になったりするほか、クラブ活動に委員会活動など、担任以外の先生と関わる機会も増えますので、よろしくお願いします。

★特に配慮が必要な授業、活動について

体育

水泳や激しい運動の際は補聴器を外すので、聞こえにくくなります。文字で視覚的に情報を提示したり、身振りを加えたりする等の配慮が必要です。

音楽

歌や演奏など、自分の音を聞いて修正することは難しい場合があります。また、音は補聴器で増幅され大きくなりますが、心地よく聞ける音の範囲が狭いために、楽器の音はうるさく感じる場合があります。中には自分で補聴器の電源を切る児童もいますので、指示を出す際など注意が必要です。

校外学習 集会

体育館やグラウンド、野外など、音が拡散する場所では聞こえづらくなります。また、スピーカーを通した音は聞き取りづらくなります。児童がワイヤレス補聴システムを所持している場合、積極的な利用をお願いします。

〇ことばときこえの教室でやっていること

きこえの学習

- ・ 学校生活で困ることを挙げて、対処法を考える学習
- ・ 周囲に援助を求めたり、聞き返したりすることができるようにする
- ・ 耳のつくりや、聴力低下の原因となる疾患についての知識や、オーゾグラム（聴力図）の見方などの学習
- ・ 学校や家庭での、補聴器の管理方法についての学習
- ・ 定期的に聴力検査を行い、聴力低下の兆候が見られないか確認し、適宜医療の受診を勧める
- ・ 自分の聴力に関心をもたせ、耳を大切にすることを育む
- ・ グループ指導を通して、仲間意識や安心感を育む



言語に関連する指導

- ・ 各種検査を行い、言語発達の確かめを行う
- ・ 検査結果をもとに、言葉の苦手な分野について学習させる
- ・ 発音の誤りがある場合は、発音の練習を行う

<参考文献>

- ・ 難聴児はどんなことで困るのか？-豊かな心とことばを育むために-【木島輝夫・菅原仙子・岡野教子編著】
- ・ 軽度・中等度難聴児の指導・支援のために-軽度・中等度難聴児をはじめて担当される先生へ-

【独立行政法人国立特別

支援教育総合研究所】